



日中45周年プロジェクト 福建省

広告



碧水丹山の名勝として知られる武夷山では、風に吹かれる雲も漂う絶景のもとで九曲溪の流れに筏が浮かびます



地理的条件に恵まれた福建省では古くから茶葉が栽培され、長い歴史の中で茶文化が育まれてきました

独特の自然・民俗から生活文化まで 注目集める福建省の多様な魅力

中国国家観光局は今年6月、日本の旅行会社を対象に福建省への研修旅行を実施しました。武夷山や土楼などユニークな自然や民俗で知られる福建省は、茶葉の産地として生活に根付いたお茶文化や中国八大料理の一つである福建料理をはじめ、客家文化や海上シルクロード文化など多様な魅力で、日本から中国を訪れる旅行需要の活性化に向けて起爆剤となることも期待されています。

ウーロン茶のふるさと



散策の合間に楽しむ名産のお茶も旅の楽しみの一つです

福建省は中国における茶文化発祥の地として、古くから茶葉の栽培が行われてきており、唐代の8世紀頃に茶聖・陸羽によって書か

た世界最古の茶書『茶経』より300年も前に茶栽培について記録された文書も残されているほどです。
18世紀にウーロン茶の製法が確立された安溪は「茶都」とも呼ばれ、最高級ブランドである「鉄観音」の産地として知られています。
丹霞地形で世界的に有名な武夷山でも最上級の茶葉と言われる武夷岩茶が栽培されており、17世紀初頭に英国王室に伝えられた武夷山紅茶は、ボストン茶会事件で東インド会社が運んできた船荷でもありました。

日本でも飲料メーカーが1980年代に世界初の缶入りウーロン茶を発売した際、ブランド茶葉の一つとして使用した鉄観音がウーロン茶の代名詞となり、その産地として福建省の知名度も一気に高まりました。

長い歴史が紡いできた福建省における茶葉栽培の伝統と多様な製茶技術は、ウーロン茶や紅茶、緑茶など、高い品質のお茶を世界中に送り出しています。

武夷山で癒し体験「九曲溪下り」

武夷岩茶を生み出した武夷山は、中国における最も典型的な丹霞の地形によつて「碧水の丹山」「東南の美しい奇界」と称され、

1999年には自然的な価値とともに文化的な価値も評価されて世界遺産に登録されました。
総面積が約1000平方キロに及び、36の峰からなる武夷山の間を縫うように全長60キロの九曲溪が流れてい



福建省の政治・経済・文化の中心地である福州市は、その起源を紀元前3世紀まで遡ります。唐代の8世紀に福州都督府となり、漢代から始まった海外貿易により宋・明代に最盛期を迎えました。明・清の建造物も数多く残り、新旧の混在する活気に満ちた「三坊七巷」(右)は、中国政府が「国家歴史文化名街」に選定しています。9世紀に創建された西禅寺(左)は福州五大禅宗寺院に名前を連ね、中国で最も重要な寺院の一つです





福建土楼は宋元時代に中原地区から南下してきた漢族が過酷な自然・社会環境の中で創造した住居様式です



福建省の山間部に点在する土楼は、雄大な自然景観に溶け込みながら、生活の息吹も感じさせてくれます

土楼へのアクセスも大幅に改善
福建省では、地震対策や防火、外敵の襲来に備えて造られた大規模な山岳民家建築である「福建土楼」も、2008年に世界文化遺産に登録されました。

武夷山観光の中心となる武夷山風景区には、天遊峰景区、一線天景区、水簾洞景区、大紅袍景区、武夷宮景区などの景勝エリアがあり、それぞれが独特の景観を形成しています。
景勝エリアの名称の一つとなっている大紅袍は、武夷山の岩肌の狭い場所に生えた茶樹で、病に苦しんでいた貴人の病がその茶で癒えたため、位の高い者にしか許されない紅色の衣がこの茶樹に贈られたことにより、その名が付けられたと伝えられます。

竹製の筏に乗って、ゆったりした流れに沿って武夷山の景観を眺める九曲溪下りは、心が洗われるような癒し体験としても人気を集めています。



福建省の南東部・九龍江の河口に位置する廈門は、異国情緒も色濃く漂う歴史的な港湾都市です

同省の西部と南部の山中に点在する福建土楼は、独特の建築スタイルによる客家（漢民族）の民家建築です。
宋元期に遡ると言われる福建土楼には、生活に必要なものが全て揃い、一つの村のようなコミュニティを形成。1000世帯以上が暮らしを共にするケースもあり、数カ月にわたって籠城できたとも言われます。その形状は、円楼、方楼をはじめ、凹字型、半円型などもあり、シンブルな幾何学模様が自然景観とのコントラストを強烈なものとしています。

1950年代～60年代には、米国の軍事衛星によつて初めて探知された福建土楼が、中国のミサイル発射基地と誤認されたこともあり、世界的に知られるようになったことになりました。
中国では近年、高速鉄道や高速道路などの交通インフラの整備が急速に進められてきており、山中に点在する福建土楼へのアクセスも著しく改善されて、ツアーに組み込み易くなってきています。

福建省は海上シルクロードの重要な起点としての歴史も持ち、唐代中期には福建泉州が広州、交州、揚州と並ぶ4大貿易港として栄えました。また、近代中国における5大国際貿易港には、福州と廈門が名前を連ねるなど、多様な沿海都市が揃っています。



ピアノの普及率が高く「ピアノの島」という異称も持つコロンス島のピアノ博物館



南京条約で開港した廈門のコロンス島には、1920年に建築された「番婆楼」など様々な洋館があります

外国の影響を受けつつ、古来からの独自文化と融合させてきたユニークなコロンス島の存在は、今後ますます注目を集めることになりそうです。

台湾海峡に臨む廈門は明代の16世紀以降、中国有数の茶葉輸出港としても繁栄してきました。南京条約で共同租界が設定された廈門のコロンス島は今年7月、中国と欧州の様式が融合した建築物や外国人と華僑がもたらした文化の多様性などが評価されて、世界文化遺産に登録されています。アヘン戦争後にヨーロッパ人の居留地となり、各国の領事館なども開設されたことから、豪商や華僑、文化エリートなどが集まって、突出した多様な文化と高い生活水準を持つ国際コミュニティがコロンス島に誕生したのでした。

福建省は海上シルクロードの重要な起点としての歴史も持ち、唐代中期には福建泉州が広州、交州、揚州と並ぶ4大貿易港として栄えました。また、近代中国における5大国際貿易港には、福州と廈門が名前を連ねるなど、多様な沿海都市が揃っています。

福建省は海上シルクロードの重要な起点としての歴史も持ち、唐代中期には福建泉州が広州、交州、揚州と並ぶ4大貿易港として栄えました。また、近代中国における5大国際貿易港には、福州と廈門が名前を連ねるなど、多様な沿海都市が揃っています。



唐代に建設された廈門の南普陀寺。大雄宝殿内には過去・現在・未来を表す三世尊仏が祀られています